

## 日本神話に彩られ 深い歴史を持つ 神々の里、吐田郷

日本神話の舞台として古い歴史を持つ村落とされるのが吐田郷（現在の御所市名柄地区）です。「戒那千坊」と呼ばれ、千を超えると言われる寺社に守られた「神々の里」葛城の、かつての中心地ともいえる場所であり、江戸時代には宿場町として栄えた地。少し歩けば遙かな歴史の足跡に次々と行き当たります。

天武天皇が「流鏑馬」の原形にあたりとされる行事を行ったと「日本書紀」に記される長柄神社の近くには、樹齢約800年のケヤキやクスノキがそびえ立つ江戸中期の「末吉家」があります。さらに歩を進めれば約400年前、江戸幕府創設の頃に建てられた国の重要文化財「中村家」も。名柄小学校の校庭からは古墳時代の



- ①中村家
- ②旧名柄郵便局
- ③長柄神社
- ④末吉家と巨木
- ⑤本池口家
- ⑥久保家(葛城酒造)



「長柄神社」

由緒ある古社の本殿むかしには、泥絵具で描かれた「八方睨みの龍」が、境内には樹齢数百年の巨木が立ち並び、そこに目をつむってたたずむだけで、心が洗われます。

「中村家住宅」

慶長年間に建立された名柄を代表する旧家。かつての代官屋敷で、入り口には江戸時代の手押し消火ポンプが、今も残っている。



「末吉家と巨木」

長柄神社そば、大庄屋だった末吉家住宅。母屋は江戸中期に建てられたもの。一帯には伝統的な町家建築が随所に残る。



「旧名柄郵便局」

レトロな外観が目を引き明治期の郵便局。今も内部には電話交換台が残る。葛城古道沿いに立つ休憩所として保存計画が進行中。



「吐田郷地区の文化を守る会」

歴史の勉強会を開いたり、地元小学校で講話をして子どもたちと「はんだ米」を育てたり、次世代に吐田郷の歴史を伝え、名を残したいと地区住民76名で活動しています。(談:木村教隆会長・写真左、澤房之介副会長 元国務大臣野屋太一さんの実家である本池口家前にて)

☑ ボランティアガイド問い合わせ  
御所市企画観光課 ☎0745-62-3001

